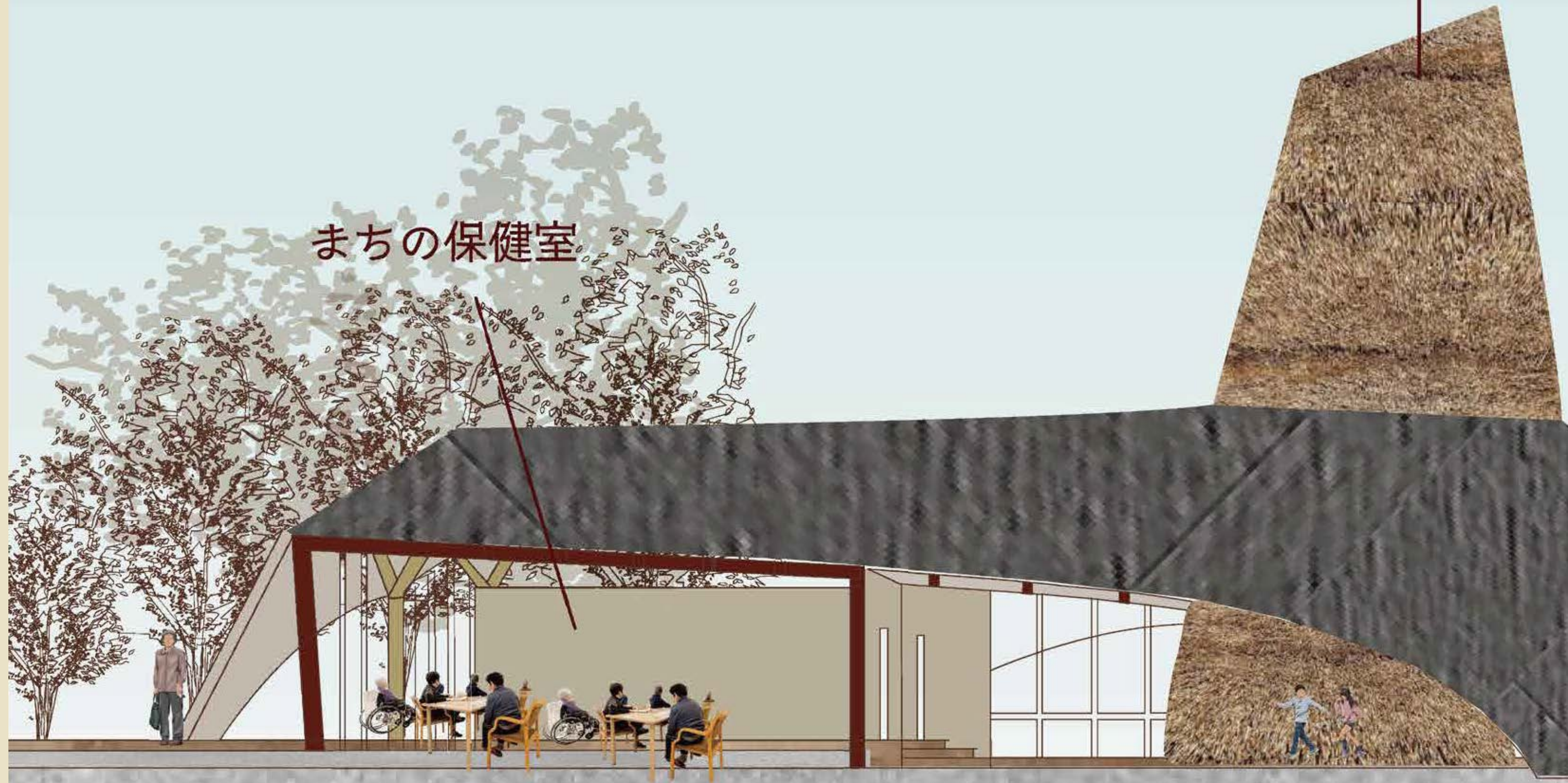


暮らしの纏い —平湯温泉郷コミュニティが織りなす日常—

「自ら湯を汲み、役割を担い、共に屋根を編む。」に閉ざされた冬でも、温泉熱が身体を動かし、獅子舞の骨格が人を集め、茅葺きの「結」が孤独を溶かす。ここは、特別な福祉ではなく、日常の延長線上に「支え合い」があるまちの居場所。平湯の風土と共に、住人と来訪者が響き合い、豊かな生活力を纏っていく。

温泉ひろば

まちの保健室



まちのワークスペース



RESEARCH | 管理から、自立へ。支援から、支え合いへ。

福祉は、慈悲的な救済から出発し、国家による制度を経て、全ての人の生活を支える社会的権利として発展してきました。「過剰なケア」が人の心身を弱らせてはいないか。本計画が目指すのは、利用者を「守るべき対象」として扱う施設ではなく、一人の人間として「生活の力を養う場」である。自分の力でできるところまでやる。足りないところは、湯けむりの中で誰かに支えてもらう。そんな日常の延長線上にある当たり前の風景の中に、福祉の真の姿である。



寺



ホスピス



救貧院



養老院



南伊豆町 おっけい（小規模多機能居宅介護）

現代社会では、世代ごとに居場所が分断され、多世代が日常的に共在する場が減少している。

SITE | 岐阜県高山市奥飛騨平湯温泉郷

平湯温泉郷は、温泉を起点に宿や祭りの営みが重なってきた湯のまちだが、人口減少と高齢化により働き手や祭りの担い手が減り、「暮らし」を支える力が弱まっている。学校や病院へいくにも約1時間は山を下りないといけない。冬はとても寒くたくさん雪が降る。まちの側溝に温泉が流れ、まち全体に広がる。子どもたちやまちの人たちの居場所は、自然動物の出没によって遊び場や居場所がなくなり自然化してきている。



現在のまちの様子

□飛騨工制度

奈良時代、飛騨に対して税を免除してまでも木工技術者を都へ送ることを定めた全国唯一の制度である。平安時代末期までの400～500年にわたり、山々に抱かれた奥深い地から都という中央都市の造営に携わる歴史を生み出した。



□湯治文化

平湯神社 湯花まつり・絵馬市
5月上旬願い事を記した護摩木を燃やし、各源泉を大きな釜で沸かし、煮えたぎった源泉を神主が参拝者に振りかけ「無病息災」「商売繁盛」を願った。
平湯神社 猿満まつり 7月下旬～8月上旬まで戦国時代、甲州の武田家臣が飛騨攻めの際、疲労と毒霧にやられ動けなくなっていたところ、白猿によって導かれた温泉で元気を取り戻したとされています。その伝説にちなみ、白猿をマスコットとした「猿満まつり」。



1970年代



2017年代



□敷地情報
岐阜県高山市奥飛騨温泉郷平湯 719
高山市人口：8.18万人
(令和7年11月時点)
奥飛騨温泉郷平湯の人口：210人
男性106人 女性104人 118世帯
(令和2年10月時点)
面積：7188㎡
敷地内高低差：5m
最低標高：1254m
最高標高：1261m

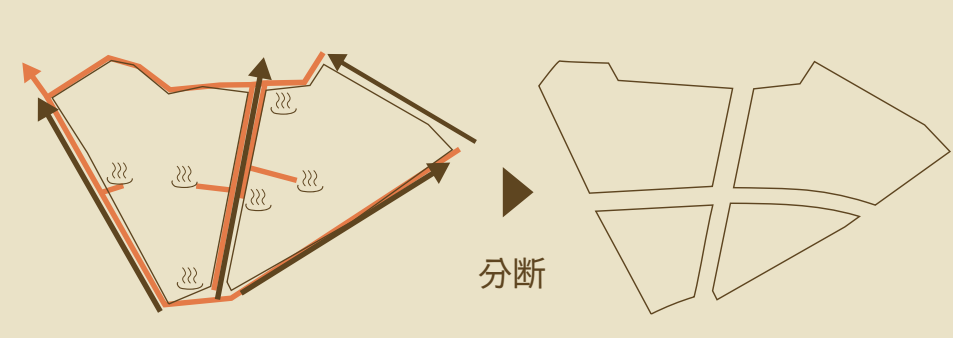






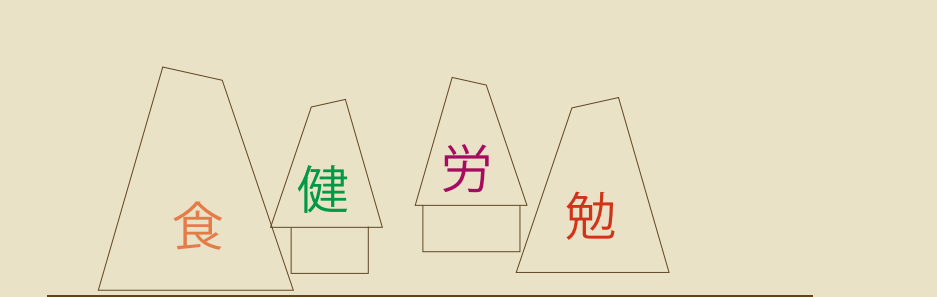
DESIGN DIAGRAMS | 平湯の風土を纏う

PLAN DIAGRAM | 敷地とコミュニティ構成



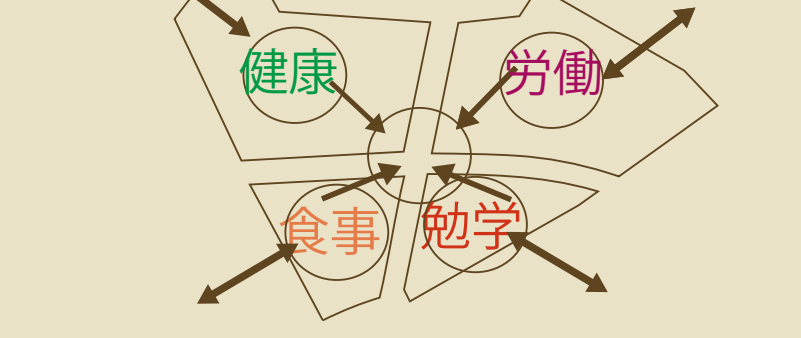
STEP 01 |

三角形の敷地を、実際に温泉が流れる地点を基点として四つの領域に分節する。それぞれを生活や活動の拠点となるエリアとして位置づける。



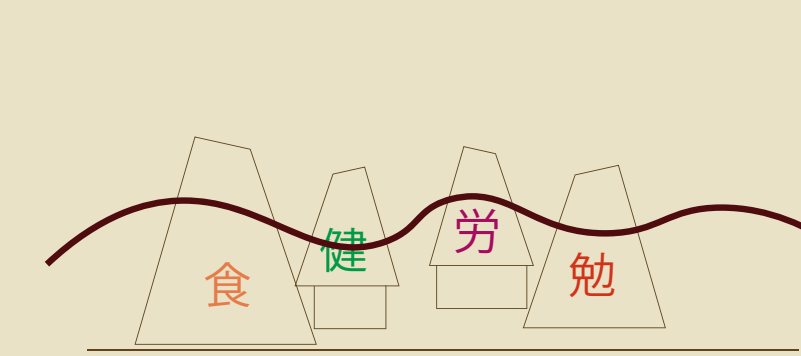
STEP 01 |

各領域に煙突状の立ち上がりを点在させ、北アルプスの山並みのように高低差のある垂直要素を形成する。



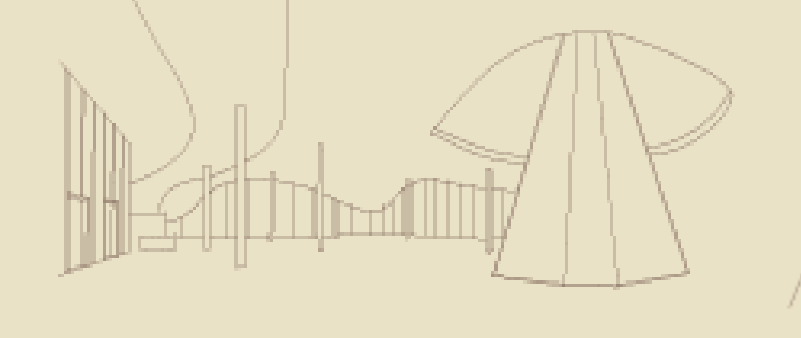
STEP 02 |

温泉が流れる部分を足湯とし、四つの領域を横断的に結びつける共有の核とする。



STEP 02 |

これらの立ち上がりを包み込むように、波打つリズムをもつ大屋根を架け、全体を一体的な空間として統合する。



STEP 03 |

各領域は相互に視線が抜ける関係とし、どこにいても他者の活動が感じられる平面構成とする。



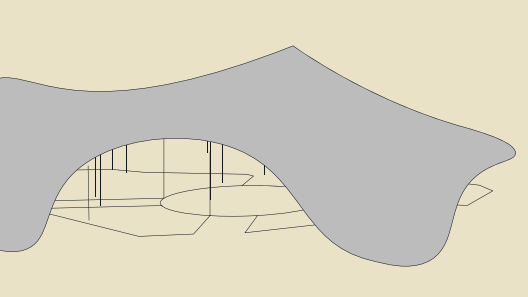
STEP 03 |

地域の伝統芸能である獅子舞を空間構成の原型として読み替える。温泉を「獅子頭」、茅葺屋根を「獅子の布」、集まる人々を「獅子方」に見立て、人の動きによって空間が生きる構造とする。



STEP 04 |

温泉を介した視覚的・身体的なつながりによって、日常的なコミュニティが自然に立ち上がる構成をつくる。



STEP 04 |

大屋根の下に多様な活動と居場所が重なり合い、日常の営みそのものが風景となる空間を形成する。

DESIGN DIAGRAMS | 平湯の風土を纏う

敷地		岐阜県高山市奥飛騨平湯温泉郷 679
床面積		1330.59 m ²
建築面積		2241.03 m ²
建蔽率		31%
容積率		18%
階数		一階
構造		木造

環境 |

水冷式ヒートポンプ：25 馬力 ×16 モジュール冷暖房・給湯・源泉昇温・氷蓄熱・熱回収
地中熱交換器：最大採熱量 600kW

温泉排熱回収設備：最大採熱量 600kW

貯湯槽：10t×1

基温泉排熱回収設備：最大採熱量 600kW

貯湯槽：10t×1 基

源泉加熱槽：10t×1 基

氷蓄熱槽：10t×1 基（スタティック）

中央監視設備・遠隔監視設備

受電：系統電力

自家発電設備：水力発電 225kW（3 基合計）

まちの保健室 420 m² 営業時間：通い 9 ～ 18

時、泊り 18 ～ 9 時

利用者定員：49 人

実登録者：高齢者 26 人、障がい者 20 人

通い：高齢者 15 人 / 日、障がい者 5 人 / 日、子ども泊り：6 人 / 日

＜職員＞

常勤：看護師又は准看護師 2 人、生活相談員 1 人、栄養士 1 人、

保育士 1 人、介護職員 2 人、非常勤：医師 1 人、13 人 = 合計 20 名

通い：高齢者 15 人 / 日、障がい者 5 人 / 日、子ども泊り：6 人 / 日

＜職員＞常勤：看護師又は准看護師 2 人、生活相談員 1 人、栄養士 1 人、保育士 1 人、介護職員 2 人、非常勤：医師 1 人、13 人 = 合計 20 名

まちの図書室 100 m² | 平湯温泉郷の住民の人生の三冊、630 冊が貯蔵される。

＜職員＞司書・受付 3 人

まちのワークスペース 350 m² | 飛騨産業 × ヒタクマの共同ワークスペース、一般の人はワークショップで木工芸品や木に触れ合う場所。

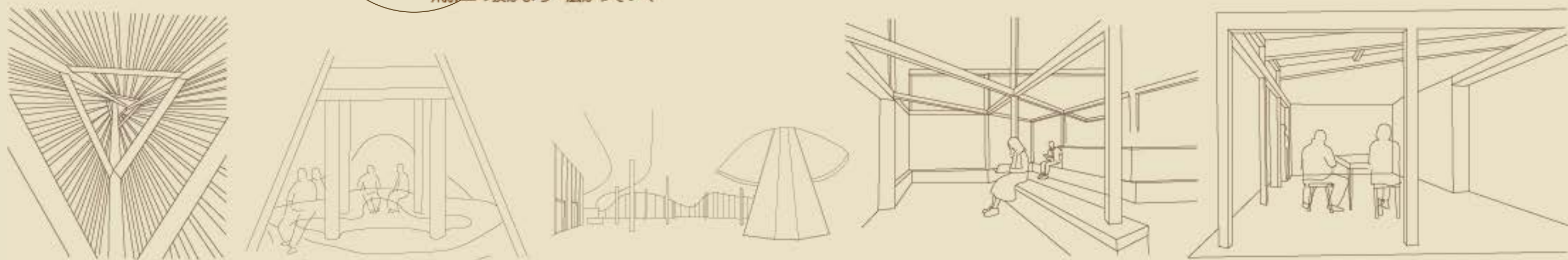
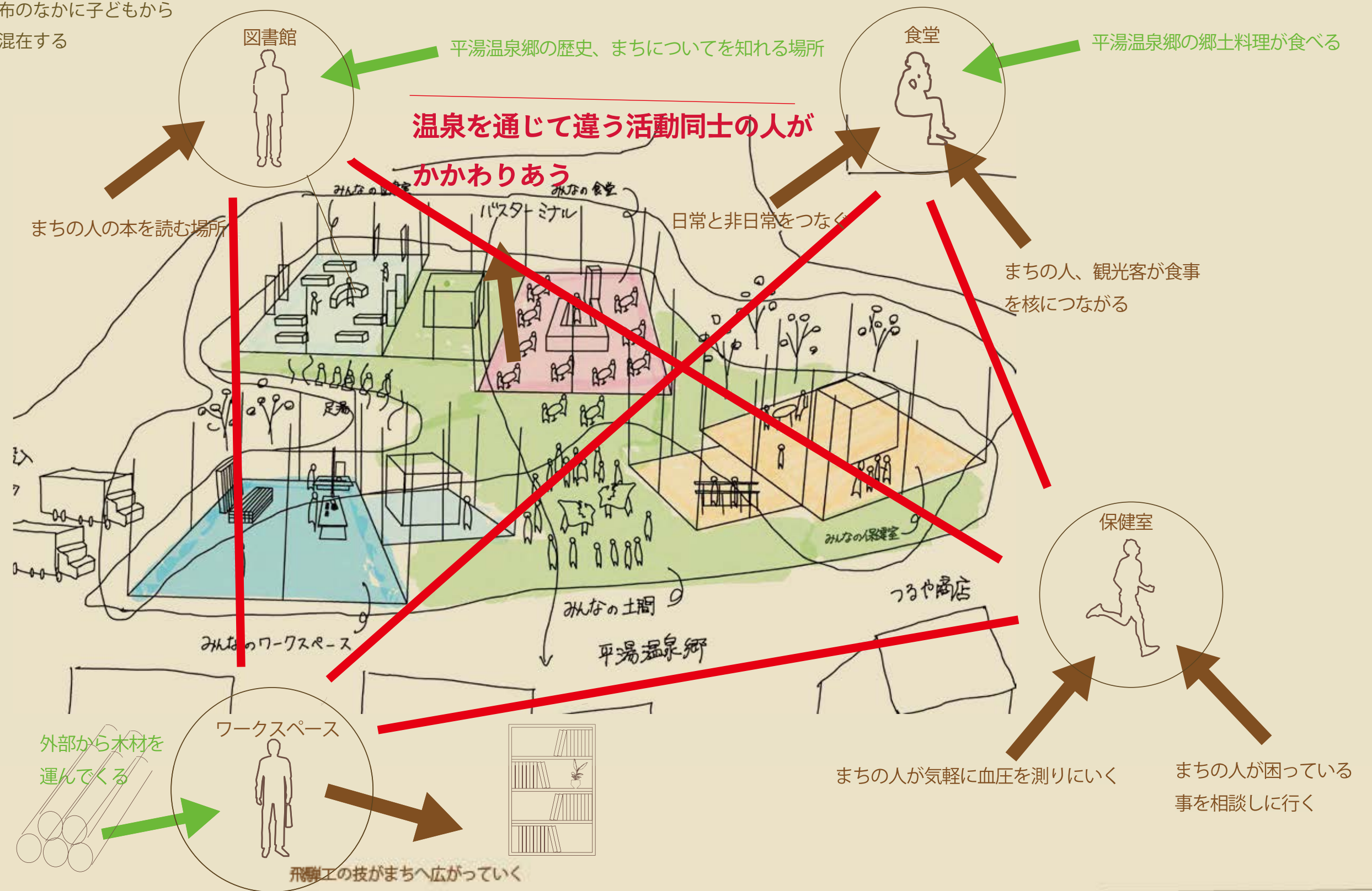
＜職員＞受付・運営マネジメント 3 人、安全管理 3 人

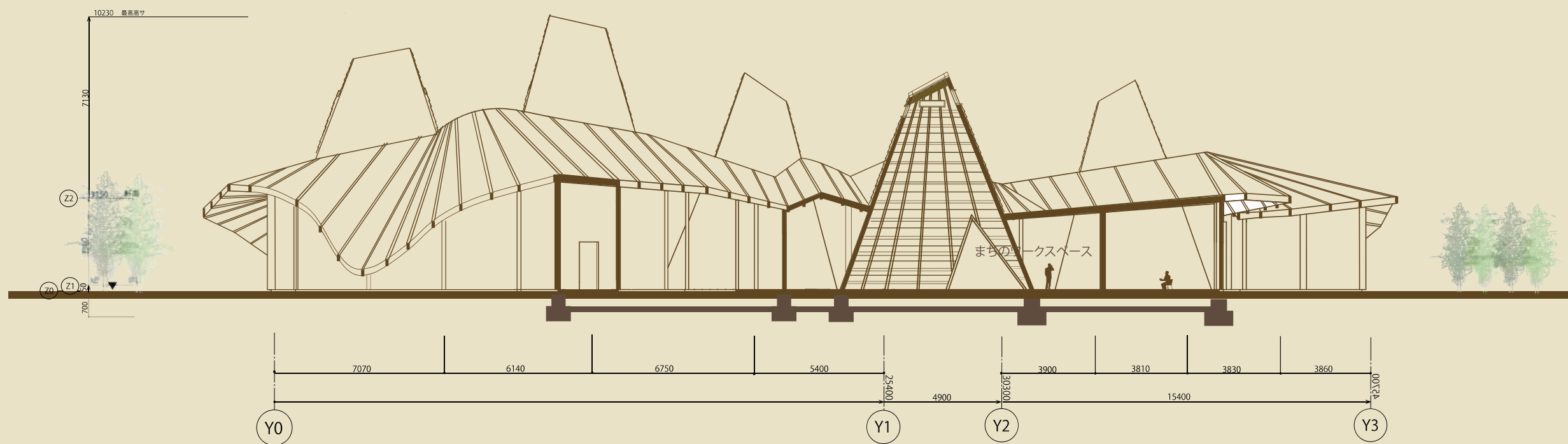
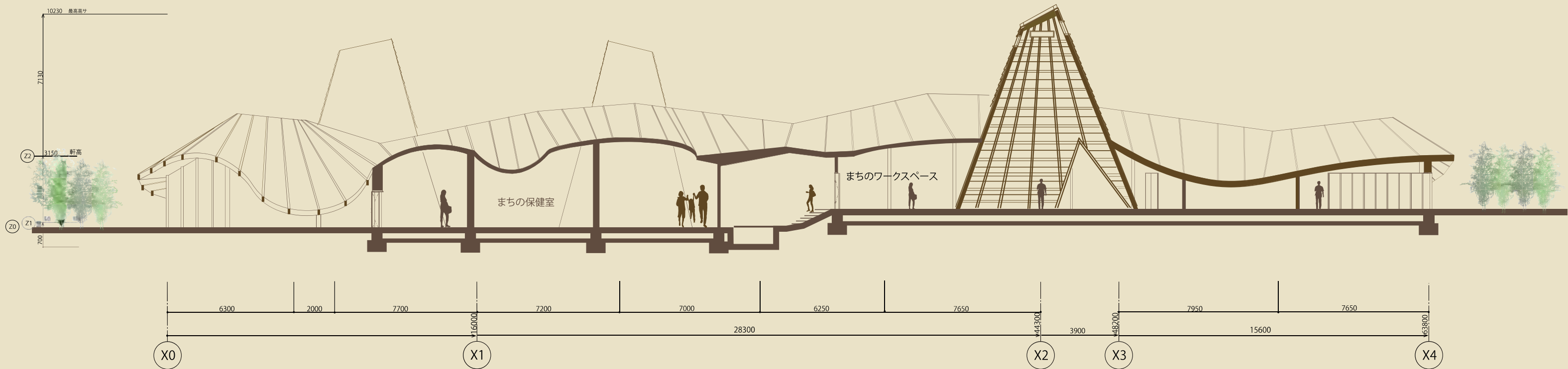
まちの食堂 100 m²

閉館した旅館の料理や郷土料理とカフェマスタッシュの料理が食べれる。

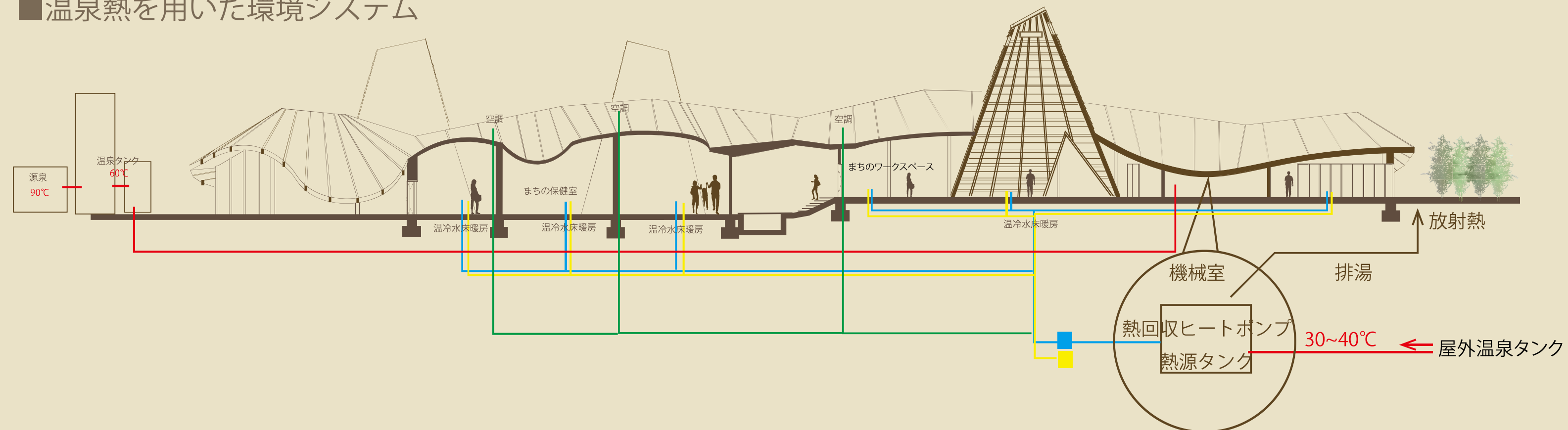
＜職員＞6 人

獅子舞のように一つの大きな布のなかに子どもからお年寄りが観る・参加するが混在する





■ 温泉熱を用いた環境システム



STRUCTURAL SYSTEM | 木質 HP シェル構造

■ 詳細図

